



新しい学校スタイルを考える

校長 三浦利信

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたことを受け、学校保健安全法も「児童生徒等の罹患が多く、学校において流行を広げる可能性が高い感染症」である第2種の感染症に変更になりました。3年間続いた新型コロナウイルス感染症の対応が、一区切りとなります。

文部科学省からの通知によると、学校の教育活動も「今後は、コロナ禍を通じて再認識された学校の役割も踏まえ、これまで制限されてきた教育活動については、その必要性を十分に検討した上で、積極的に実施していくことが求められる。」とされており、今までの対応が大きく変わることが考えられます。一方で、学校行事等はコロナ禍で、「学校における働き方改革を進める必要性ともあいまって、それまで慣例的に行われていた学校での様々な取組が、真に児童生徒の教育上必要な部分に精選、重点化が進められた状況もみられる」とされており、コロナ禍前の教育活動に戻すのではなく、この3年間の成果を踏まえた新しい学校スタイルを目指すこととなります。

新しい学校スタイルの視点として、GIGAタブレット等デジタル技術を一層活用した一人個別最適な学びと協働的な学びの実現や多様な他者と交流する豊かな体験活動の充実が考えられますが、重要な考え方は「持続可能な社会の担い手を育成する」ことにあると思います。10年後、20年後に社会の中心として活躍するために、必要な知識・技能、考え方を生徒が身に付けることができる教育こそが「新しい学校スタイル」と考えます。一朝一夕で実現できることでは無いと思いますが、今までの成果を基に取り組んでいきます。

自分自身でなんとかしてやろうという思いが強い

昨年度のプロ野球で、日本人最多本塁打の記録を更新し、史上最年少（22歳）で三冠王（打率・本塁打・打点）に輝いた、東京ヤクルトスワローズの村上宗隆選手の言葉です。村上選手は「周りから期待されているからどうというわけではなく、自分自身でなんとかしてやろうという思いが強い」と話しています。村上選手は東京オリンピックやワールド・ベースボール・クラシックでも活躍しました。村上選手の印象的な場面として、東京オリンピックの決勝前日、選手ミーティングが終わった後に、1人で相手投手のビデオを見続ける姿がありました。その結果が、決勝戦でのホームランに繋がりました。一方で、村上選手は「自分で自分自身に期待している」とも話をしています。自分を信じて準備をする姿勢が素晴らしいと思います。

コロナ禍も一区切り、学習や行事、部活動等で出来ることが増えていくと思います。コロナ禍で十分経験できなかったことで、上手く出来るか不安に感じることも多いと思いますが、活躍する自分の姿を期待して、自分に出来る準備をしっかりと進め、本番では「一生懸命はかっこいい」のとおり、全力で取り組んで欲しいと思います。